

た ま み

登録番号：第14543号

登録年月日：平成18年12月14日

登録者：(独)農業・食品産業技術総合研究機構

育成者：吉田俊雄 根角博久 山田彬雄
上野 勇 伊藤祐司 日高哲志
吉岡照高 野々村睦子 七條寅之助 富永茂人 中嶋直子 木

原武士 國賀 武 村瀬昭治

瀧下文孝

来歴：「清見」と「ウイルキング」の交雑実生

育成地：静岡県静岡市清水区興津（(独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所カンキツ研究興津拠点）

特 性

■栽培特性

樹勢は中庸で、樹姿は直立性と開張性の中間である。枝梢の太さは細く密生し、節間長は中程度、とげは若木で希に発生することがあるが、成木になるとほぼ消失している。葉は細長く小さい。花は小さく、単生する。花粉は少ないが、稔生率は90%程度と高いため結実性は良好で着果過多になりやすく、隔年結果する傾向がある。

■果実特性

平均的な果実では重さが約150g、扁球形で果形指数は約130である。果皮は橙色、果面はやや滑らかである。油胞の大きさ、分布密度はともに中程度。着色開始は11月上旬で、完全着色は12月上旬である。クエン酸含量が1月中旬に1.0%程度になり、成熟期は1月中旬であると考えられる。果皮の厚さは2mmと薄く、柔らかくて剥皮は容易である。浮皮はほとんど発生しない。果肉は橙色で柔らかく、果汁量は多い。じょうのう膜は薄く柔らかいので食べやすい。果汁の糖度は高く、オレンジ様の強い香気があり、食味は良好である。果肉にはビタミンAの前駆体で発がん抑制等の機能性が注目されるβ-クリプトキサンチンを多く含む。種子は平均で7粒程度入る。種子は単胚性である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

そうか病、かいよう病についてはかなり強い。カンキツトリステザウィルスによるステムピッチングの発生は軽度である。

着果過多になると小玉になりすぎるとともに、隔年結果が助長される。逆に、着果が少なく大果になると果皮が厚くなり、果肉も硬くなる傾向があるので、適正な着果量となるように努める。

■地域適応性

成熟期の1月まで樹上越冬できる温暖なカンキツ栽培地域が適地である。中晩生カンキツとしては早熟で、かいよう病等にも比較的強いので、東海地方から九州地方まで適応地域は広いと考えられる。

(根角博久)